



海老原誠治 (えびはら せいじ)

いただきます.info事務局、三信化工株式会社、資源と環境と教育を考える会『エコが見える学校』、女子栄養大学短期大学部非常勤講師、関東学院大学非常勤講師。和食器を用いた出前授業や、テレビ局の撮影クルーの経験を生かして動画作成の研修会の講師も務める。

動画に動画を重ねる ／色温度

動画に動画を重ねる、応用 //

6月号では、動画に別の動画を重ねる、Pin P（ピクチャー・イン・ピクチャー）を紹介しましたが、今回は複数の動画をタイミングを合わせて書き出す応用事例を紹介します。事例に使うのは、7月号で紹介した、スローモーション動画です。

○複数の動画サイズをそろえる

○PPT（パワーポイント）（図1）：①挿入した動画を全て選択→②「ビデオ形式（ツール）」を選択→③「書式ウィンドウ」を選択→④「サイズ」「ビデオの設定」を選択→⑤「縦横比を固定する」にチェック→⑥「高さ」に任意の値を入力→位置をそろえる

○動画の再生開始タイミングをそろえる

○PPT（図2）：A. 動画を選び「再生」タブを選択→B. 「ビデオのトリミング」を選択→C. 再生範囲を指定するスライダー（つまみ）を動かし、再生開始ポイントを調整→他の動画の再生開始ポイントも、同様に調整 ※ タイムコードを参考に、着水の3秒前などにそろえることも可能。

図1 複数の動画サイズをそろえる（PPT）



※ PPT (Microsoft PowerPoint2019.バージョン16.60) 使用。

●動画を同時に再生するための設定

○PPT（図3）：A. 「アニメーション」タブを選択→B. 「アニメーションウィンドウ」を選択→C. アニメーションウィンドウから、2つめ以降の動画を全て選択→D. 「直前の動作と同時」を選択

演者と画面の色を合わせる //

さて、話は変わりますが、ICTや大型モニターが普及し、オンラインセミナーなど、モニターをバックに演示する事例も増えています。その時、演者の顔色が赤みがかったり、モニター画面が青灰色気味に見える

図2 動画の再生開始タイミングをそろえる（PPT）

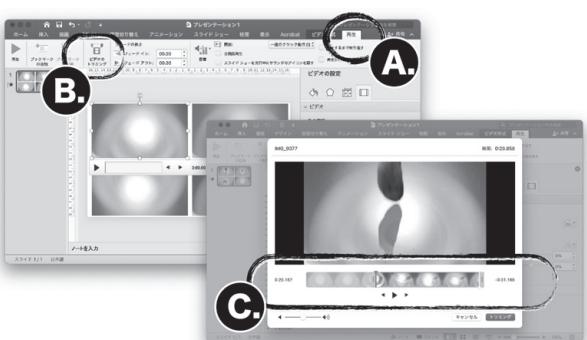


図3 動画を同時に再生するための設定（PPT）

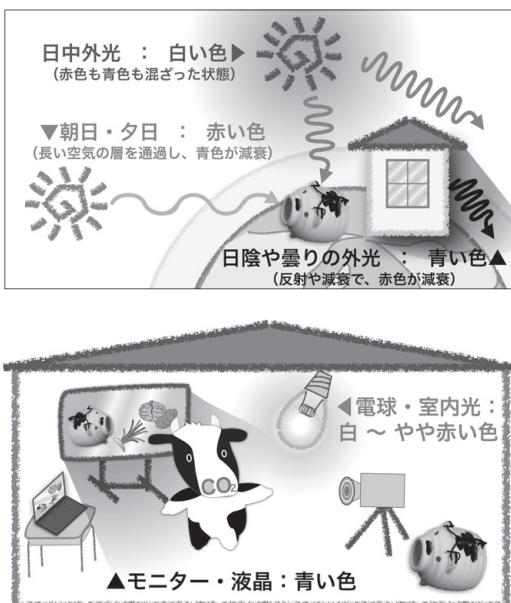




表1 色温度の違い

低い色温度	日中外光の色温度	高い色温度
~4,000 K (ケルビン) 温度が低く、赤い恒星の色	5~6,000 K (ケルビン) 温度がやや低く、白い恒星の色	7,000 K (ケルビン) ~ 温度が高く、青い恒星の色
朝日・夕日、 昔の電球、ロウソクの明かり	日中の太陽光	曇りの外光、日陰の外光反射光 モニターの色

図4 太陽光や室内光の色温度の違い



ことが少なくなく、些末なことなのですが食材などの色が重要な場合では気になってしまします。これは、さまざまな光源が混ざることによって起きる現象です。

身の回りには、たくさんの種類の光が混ざって存在します。最もわかりやすいのは太陽光です。昼間は白色、朝日・夕日では、太陽光の角度によって大気の層を通過する距離が長くなり、エネルギーが減衰し、赤色になります。また日陰や曇りでは、光の反射が多く、エネルギーの高い光が主体になるため、やや青っぽい色になります。このように、さまざまな色がありますが、その違いを色温度といって、温度で表現します（図4）。

焼き物を焼く窯や、オーブントースターの発熱体（電熱線）などに見られるように、物は温度が上がると発光します。身の回り



▲モニター画面と演者の顔の色温度を調節している筆者の演示例。台湾の学校給食の向上や食育を進める、「大享食育協会」向けに作成したもの。
<https://youtu.be/nqgPa8Drn14>

では赤い光が多いですが、もっと温度が上がると赤→白→青と変化します。夜空の恒星が、若い星は温度が高いため青く、燃え尽きる前の星は温度が低めのため赤いとされます。これらの発色を対応した温度（ケルビン）で表現します（表1）。

室内の照明は、通常、昼間のような光（昼光色）～暖色（電球色）になりますが、モニターや液晶テレビは一般に青寄りの発色になります。ですからオンラインなどで、演者・画面を同時に映す場合には、発色を合わせることが必要です。テレビやモニターの設定画面では「色温度・Temperature」等の色調調節ができます。

上記のQRコードでは、筆者の演示が公開されています。色温度を調節した事例になりますので、他の事例と色のバランスを比較できるかと思います。